



J A U W

F U K U O K A

(一社) 大学女性協会
福岡支部会報
2020.5.30
発行

第 42 号

第 58 回通常福岡支部総会

日時：2019 年 4 月 21 日(日)11:30～14:00

会場：ホテルオークラ 「山里」

出席者：15 名 委任状：12 名

I. 総会 11:30～12:10

1. 開会の言葉 <<総会成立審査報告>> 司会：石田 雅子
2. 支部長挨拶 支部長：青沼 美撫子
3. 議事

【報告事項】

- (1) 事業報告 書記：矢田 和子
- (2) 決算報告 会計：桑原 洋子
- (3) 会計監査報告 会計監査：石田 雅子
- (4) 質疑

【審議事項】

- (1) 役員の承認 支部長：青沼 美撫子
- (2) 事業計画(案) 書記：久保田 千景
- (3) 予算(案) 会計：桑原 洋子
- (4) その他

4. 閉会の言葉 司会：石田 雅子



II. 食事 12:10 ~ 13:30

III. ミニバザー 13:30 ~ 14:00

4月の支部総会は、前年度の事業・決算・会計監査が報告され、今年度の事業計画と予算が審議され決定しました。活動報告では青沼支部長より、70周年記念誌について報告がありました。今年度の事業計画において、講演等については女性の活躍やリーダーシップについて共有出来る様、充実したものに出来たらと思っております。

ミニバザーでは多くの会員から品物が寄せられ、13,090円の収益となりました。ご協力を頂きましてありがとうございます。

大変美味しく目にも素晴らしい和食に舌鼓を打ちながら、皆様と共に語らい、今年度も大学女性協会福岡支部として協働を図り、活動していきたいと思っております。

(久保田千景)

2019 年度全国総会 第 8 回定時会員総会

		日時： 5月21日(土)～23日(月)
		会場： ホテル日航プリンセス京都
支部長会	5月21日(土) 14:00～17:00	出席： 青沼 美撫子
懇親会	18:00～20:00	青沼 美撫子
会員総会	5月22日(日) 9:00～16:30	青沼 美撫子
研修旅行	5月23日(月) 9:00～16:00	

支部長会では活発な質疑応答が例年通りあった。札幌支部、仙台支部、福岡支部はそれぞれの「70周年記念誌」を配布した。

法務省大臣官房国際課派遣の山下 麻美さんの「京都コンgres」の説明と参加要請があった。

同日夕刻の懇親会はよく吟味されたヘルシーで美味しい料理もさることながら、フランスから種々の勲章を授与されたヴァイオリニストの森悠子さんの軽妙で楽しい語りに乗せてのヴァイオリン演奏が楽しかった。ノートルダム大聖堂炎上を近くで目撃された森さんは、有名な「尖塔」を犠牲にしても「パイプオルガン」を守り抜き、失火の過失を咎めない市民の寛容さに感心したと語られた。

22日の会員総会は、出席者95名、議決権行使書提出者317名で総会成立。第1号・第2号議案は承認可決された。

午後の部では、「日本人の笑い」と題して、大蔵流狂言師 茂山 千三郎氏の「記念講演会」があった。狂言の所作を巧みな語りを交えて披露され、古典芸能の奥の深さを垣間見た。「狂言」と「能」の違い、「狂言」の上質な「笑い」の生まれる芸を目指すよう、父親の茂山 千五郎氏に教えられ、今日まで精進されたことに感銘を受けた。

「パネルディスカッション」 22日(日) 14:30～16:25

「支部の活動について考える」 ～全支部へのアンケートをもとに～

コーディネーター：加納 孝代(企画担当副会長)

パネリスト：高橋 侑子(京都支部長・アンケート担当)

端本 和子(広報担当理事)

堀内 満智子(札幌支部長)

渋谷 由美子(仙台支部長)

青沼 美撫子(福岡支部長)

送付されてきたアンケートを担当の京都支部に回答した、会員数・実働人数・近隣支部との連携・知域社会との連携の有無と活動・支部独自の取り組みについてであった(全支部の回答のリストを戴き、これからの活動に役に立つと思った)

壇上で、絞られたテーマを与えられた持ち時間3分で話した。会員の高齢化のメリット(公的施設使用料が無料)、出前講座の講師を県や市に依頼(講師料が無料)、現役会員に講師を依頼し小額の謝礼で研究の発表の場にしている。全国セミナーの若手会員の参加経費が出せないのが残念。とは言え、実働人数が少なくとも会員の協力を得て活動ができているのは喜ばしいと語った。

会場からの質問も含めて、他支部の活動や工夫を知り大変参考になった。支部活動について考える機会を戴き感謝している。
(青沼美撫子)

6月公開講演会

講演「人生の最期をどこで迎えますか？」
講師：久保田 千景会員

日時：6月9日（日）13：30～15：30
会場：福岡市西市民センター3F
第3会議室
出席者：会員5名 他8名



季節が日々変わりゆくこと、人生を重ねていることを実感する中で、誰にでもおとすれる人生の最期について、よりよい最期を迎える場所について学ぶ会でした。

がんと診断を受け、様々な治療を受け、これ以上の治療はないと医師から伝えられたあと、最期までどのように生きるのか、生きる場所はどこを選択するのかということ、厚生労働省の調査データを含めながら話をさせて頂きました。人生の最期をどこで過ごすのかということについて近い人と話をされている方は多くはありません。参加者の方からは、家族の人生の最期をその家族が支えることの難しさを、ホスピスや自宅での実際の経験について話題提供がありました。自身の人生の最期を過ごすこと、家族の人生の最期を支えることは、患者さん、ご家族そして医療職者で共に支える必要があることを実感いたしました。

最期を過ごす場所は様々で、病院の一般病棟・ホスピス病院・ホスピス病棟・自宅など様々です。人生の最期を家族と過ごす、好きな人と過ごす、好きなことをする、もしくはなにもしない・・・これらを叶えるために、人生の最期をどこで迎えるのか、人は最期まで生きていくということを踏まえ、考えていきたいものです。

（久保田千景）

7月公開講演会

講演「リニューアルした福岡市美術館」
講師：岩永悦子氏（福岡市美術館学芸課長）

日時：7月14日（日）13:30～15:30
会場：早良市民センター3F 第2会議室
出席者：会員6名 他2名



久しぶりに7月例会に参加しました。始めに岩永悦子さんから大学女性協会についての質問があり、西原会員の説明を受けて「私が学芸員をしているのは皆様方のご活躍のお陰だと思っています」との感謝の言葉から学芸員の男女比のお話が始まりました。

岩永さんが就職した1987年当時の福岡市の学芸員は10名でその内女性は1名だったそうです。ところが現在2019年では、学芸員9名中、女性は6名となり、そして学芸員を募集すると圧倒的に女性が多く、男女比のバランスをとるのが難しい状況にあるそうです。

次に今年の11月3日で開館記念40周年を迎えた福岡市美術館のリニューアルについてのお話がありました。福岡市美術館が目指す方向は福岡市が持つ世界的レベルのコレクションを市民および来訪者に知って頂くことだそうです。

多様性と多文化を意識し、福岡市民にお客さんが来た時に自宅の客間のように使って貰いたい、また未就学のお子さんを連れてご家族で楽しんで欲しいと市民にとって敷居の低い美術館を目指したそうです。



ロゴマークの手書きで書かれた大濠の池と真四角の建物は多様性を表し、日本の文化を伝えるという意味で各階に和式のトイレを一つ残し、日本の伝統スポーツである相撲とアメリカ人の小錦をモデルにした銅像は多様性と多文化を表しているそうです。

お話しで印象に残ったことは、学芸員の方々の前川國男設計による建物への強い思いです。

外観を残し内部は一新するという建築デザイン事務所の提案に対し、内部も前川建築を残そうと拘ったのは学芸員の方々だったそうです。前川建築を継承したのものとして①32 CM 角の床タイル②打ち込みタイル工法による外壁 ③アーチ天井及び照明器具④はつり工法による柱と壁だそうで、写真による丁寧な説明がありました。

また、カフェやレストランそしてブランドショップなどにより収益部門もしっかり考えられており、読書室は稼働率が低いためカフェとし、カフェとレストランはホテルニューオータニが入っているというお話しにも驚きました。

その費用対効果のバランスの良さについて、お尋ねしましたところ、多様な人たちと出会い、お話を聞く中で視野が広がり異なる分野の方々の意見を受け入れられるようになったのではないかとのお話でした。

学芸員が男性であれば、読書室をカフェには出来なかったのではと思い、岩永さんが就職された1987年当時の男性学芸員が多い中でリニューアルをした場合、現在のような前川建築を残しつつ収益部門も確保した運営になっただろうか、女性学芸員が多いことによりこのようなリニューアルが実現したのではないかと質問しました。回答は、男女の問題というよりは個人の問題だと思ふとのことでした。その回答から、性差を意識することのない職場で活躍されている様子が伝わり、嬉しく思いました。

沢山の写真のスライドを使ってのお話しに、リニューアルされた福岡市美術館に行きたいと思っていましたら、FAF（福岡建築ファウンデーション）という団体が10月19日に福岡市美術館ツアーを開催することを知りました。早速申し込み参加して実物を確認し写真を沢山とって来ました。

① 32CM 角の床タイル
美術館の屋上からの風景
特別の屋上見学。



② 打ち込みタイル工法による外壁
タイルに杭を抜いた後の穴が残っている。



③ 内側からみたアーチ天井と照明
窓枠の内と外に段差がなく、繋がっているように見える。



④ はつり工法による柱と壁窓枠の内と外が繋がっている。



⑤ 読書室跡のカフェ
少々お値段は高めです。



⑥ 小錦の銅像と金属の松
多様性と多文化を表現



(相良かおる)

9月公開講演会

講演「国連ハビタット福岡(アジア太平洋担当)の最近の活動」 日時：9月29日(日) 13:30~15:30
講師： 星野 幸代氏 (本部長補佐官) 会場：福岡市早良市民センター第2会議室
出席者：会員6名 他4名

「国際連合」いわゆる「国連」は安全保障理事会を始めとして、いくつかの分野に分かれており



「ハビタット」はその中の一つです。「ハビタット」はラテン語で「住まい」を意味しており、国連での「ハビタット計画」は「人間の安全保障」すなわち戦争や紛争・災害・貧困等により劣悪な環境にいる人々に「安全・安心」「将来に希望を持てるファミリー生活、ひいては街づくりを」という目的であり、しかもその実現は現地の人達で自主的にそれを作り上げたいという理念のもと、めざましい活躍を続けています。スライドは次々に映し出されます。

- 地面に穴を掘っただけのトイレ。
- 生活のための水汲みのため、学校にも通えない女の子。
- 屋根も柱も壊れかけた家に何人もの家族が住むいわゆるスラム街
- 果てしなく続くゴミの山。メタンガスの発生により多くの死者を出し、水質汚染の原因にもなっている。



このような状況を改善し、少しでも安心して住める環境を作るべく、まず住民と充分話し合い自分達で解決するための訓練・指導を行いつつ、これらの難題に取り組み続けているのが「ハビタット」です。ゴミの山は約10か月で草が芽吹く見晴らし台となり、汚水は生活水に変わりポンプでくみ上げられ、安心して家族が住める自分達の家を自分達の手で作られ、更には街づくりまで推し進めています。この中で「準好気性埋立て構造」を用いた、いわゆる「福岡方式」が用いられたことは特筆すべきでしょう。星野講師ご自身も「阪神淡路大震災」に遭われ、初めて水を飲むことができた時の感動が「ハビタット」に入られた大きなきっかけであったとのこと。チャーミングな講師に尊敬の念を抱くと同時に昨今の異常気象の多い日本に住む私たちにも猛反省を促された一日でした。

(石蔵幸代)

男女共同参画で地域力 UP! アミカスネットによる視聴と対談

「性暴力ゼロのまちに ～知っていますか？ 福岡県性暴力根絶条例～」

I BBC ドキュメンタリー「日本の秘められた恥」視聴
II 対談 堤 かなめさん & 伊藤 詩織さん

日時：10月27日(日)13:30～16:00
会場：アミカス 4F 大ホール
入場者：315名



福岡市における性犯罪は政令市のワースト上位を推移しています。そうした中、本年（2019年）3月、福岡県で性暴力根絶条例が公布されました。

伊藤 詩織さんは、顔と実名を出して性被害を告発し、日本では #Me Too 運動を広げ、これまで被害に遭っても、声や名前を出せなかった多くの女性たちを勇気づけています。

（チラシより）



I 部では、性暴力被害について「Black Box」（文藝春秋）を書いた、伊藤 詩織さんを追った、英国 BBC 放送のドキュメンタリー「Japan's Secret Shame（日本の秘められた恥）」が上映されました。

BBC は公平かつ中立的に、この問題と取り組み、両国の司法と物事の捉え方の相違、国民性の違いを見事に見せてくれました。

回答されたアンケートを見る限り、「知らなかった」「驚いた」「何故、これが日本で公開されなかったのか」との関心の深さも知りました。

II 部は、「性暴力根絶条例」判定に、精力的に尽力された、福岡県議会議員の

堤 かなめさんと、ジャーナリスト・映像作家の伊藤詩織さんとの対談形式で行われ、伊藤さんは自身の体験や性暴力に関する海外の取り組みなどを、冷静に丁寧に語られました。

（私は実行委員の一人として「Black Box」の販売担当で、会場に入れず対談を直接聞けず、詳細をお伝えできませんでした）



（青沼美撫子）

11月例会 一日ツアー「大分支部との交流」

日時：11月10日（日）10:30～16:00

会場：ホテル日航大分、
大分香りの博物館

出席者：会員4名

- I. 「国際交流の会 ～留学生と「和の心と香りの文化」をたずねる～」 10:30～11:30
- II. 昼食 11:30～13:10
- III. 「大分香りの博物館」 訪問 14:00～16:00



福岡から西原そめ子さん、加藤仁美さん、相良かおるさんと青沼が参加しました。

プレゼンテーションをされた洪 永原さんは、マレーシア出身の別府大学男子留学生で、母国の気候、風土、気質、文化などを映像で解説されました。ご専門の「発酵学」について詳細に、分かりやすく日本語で説明され、ユニークな別大の「温泉学」「九州学」も知りました。3人の同大学女子留学生は、韓国、中国、スリランカ出身で、

夫々が自己紹介され、出身国の最新情報を日本語で熱く語られ、楽しく聞かせていただきました。

ランチ・タイムのホテルのフランス料理は、美味しく、豪華なデザートにはびっくりしました！

食後、大分支部、熊本支部の車で海岸沿いの景色を楽しみながら、別府市の「大分香りの博物館」に着き、「香水調合」グループと「匂い袋調香」グループに分かれました。夫々のグループはインストラクターの指導で、楽しみながらオリジナル作品を仕上げました。その後、一同は種々のエピソードを交えた「香りの歴史」を拝聴し、温泉水で出来た、格別甘い「甘酒」をいただき、午後4時に解散となりました。



加藤さんと相良さんは定刻に帰福され、残った2人は、西原さんのお勧めで鉄輪温泉に足を伸ばし、二人でゆっくりお湯に浸かりました。

大分支部の皆様と西原さんのお蔭で、私にとって、とても充実した一日ツアーとなりました。

（青沼美撫子）

新年会とミニバザー

新年会とミニバザー

卓話：「矢田さんと JAUW」

青沼 美撫子 支部長

日時：1月26日（日）12:00～15:00

場所：西鉄グランドホテル
地下1F「桃林」

出席：会員12名

令和2年1月26日（日）12時より、新年会とミニバザーが、西鉄グランドホテル「桃林」で行われました。12名の会員が出席されました。支部長のご挨拶の後、西原会員に乾杯のご発声をお願いし食事が始まりました。

その間、支部長より、昨年11月初めにご逝去されました故矢田 和子会員のお話がありました。JAUWでのご活躍、俳句に優れたお話などお聞きしながら、お人柄を偲びました。きっと、天国の矢田さんに届いたことと思います。

食事後、ミニバザーを行い、支部長より三月勉強会の連絡があり散会となりました。

（加藤 志鈴子）

会計監査役員会

1. 会計監査 石田 雅子
会計 桑原 洋子 井上 宏子
2. 役員会（支部総会に向けての準備）
支部長 青沼 美撫子
書記 久保田 千景 ほか上記 3人

日時：2月16日（日）12:00～14:00
場所：岩田屋新館7F
「バンケットルーム」
出席：役員5名

3月勉強会

講演「大学が生き残るための
福女大のユニークな提案と実行」
講師：梶山 千里氏（福岡女子大学理事長・学長）

日時：3月8日（日）13:30～16:00
場所：福岡女子大学本部棟2F会議室
出席：会員7名 他4名



JAUW は、①女性の高等教育の向上、②男女共同参画社会の推進、
③国際協力と世界平和を目的としています。

コロナ禍の中、梶山学長のご好意で福岡女子大学の会議室で開催して頂いた3月の勉強会は、有り難く、JAUWの会員として参加しなくてはと思い参加しました。

配布資料の内容は、①福岡女子大学を知って欲しい+ちょっと時間を頂戴して自己紹介、②福女大の2011年以降の変化（福女大

Pride・unique）、③2011年以降の福女大のuniqueによる結果は（全国大学ランキング）、④100周年記念事業の4部構成となっており、配布用資料のスライドは表紙や目次等を含めると63頁の立派なものでした。

その内①に関しては福岡女子の歴史を纏めたスライドと立地と周辺環境に関するスライドが2頁、21頁は学長の自己紹介で、お話しの中でも昔の福岡女子大のことは詳しくは知らないとおっしゃっていました。傘寿の梶山学長の座右の銘は「人並みの努力は人並みに終わる」、利点は「苦勞を苦勞とは思わずチャンスに持っていくところ」だそうです。

②の福女大の2011年以降の変化については27頁のスライドを使い、女性のトップリーダを育成する上で、教育の質、中でも国際教育と感性教育について様々な改革を行い、③その結果「THE大学ランキング・女子大比較（2019）」において全国約80校の女子大学の中で2位（1位はお茶の水女子大学）となったこと、教育面では情報が弱いとお話しされました。そして④100周年記念事業（2023年）として女性リーダーシップセンターと国際フードスタディセンターを設立し、研究面を強化するとともに、文化・遊びの面で女子大オーケストラを設立するとのことのお話でした。



九州大学は東大や京大には勝てないが、福岡女子大は女子大学ランキングでトップになる射程圏内にある。トップになる為には、福岡女子大学の認知度を高めることが大切で、自分が広告塔となり広くPR活動を行う。また教職員を鼓舞し様々な改革を行うので、2011以降の発展度と将来性を評価して支援して欲しいというお話でした。

篠崎会員の「改革を遂行する上で抵抗勢力はなかったか。」という質問に、「100%賛成ということはない、ただ福岡女子大は小さいので九大のことを話すと、反対する人は置いていく。若い人な

どついてきてくれる人は多い。また法人化により教授会には決定権はない。反対する人に1年間猶予を与え、変わらない場合は査定によりボーナスを減らすということが考えられる。50代、60代の大人の意識を改革することは出来ない、収入が減るとなれば自分で変わる人もでてくる。また変わらなくても構わないと思っている。」とのお話でした。

教育面で情報が弱いとのお話しが気に掛かり、資料を見ると1位になるためには教育充実度の向上は重要課題であることは明らかでした。また、2つの研究センターでは統計処理の専門家が必要です。そこで私は、情報学に強い数学者を採用し理数系の科目を充実させてはと提案しました。

ところが、理解して頂けないようでした。



学長が教育の質の向上を目指して一般科目の教員を採用することは、難しいことではないのではと不思議に思いながら、壁一面に菜の花の絵画が飾られた素晴らしい学長室や、美術品が展示された図書館等を見学し、帰宅しました。

原稿を書きながら、テレビから流れる
検事長の定年延長問題のニュースを聴

き、公立大学において傘寿の学長の存在は、福岡女子大の名前を全国に知らしめる広告塔としての特例なのだろうと気付きました。

教員は、教育の向上など学内の改革には目が行きますが、その成果を評価し、学外に宣伝することは苦手です。全国1位の女子大学になることを目標に、教職員の出来ないことを身を持って実践されている梶山学長に、トップリーダーの役割を学んだ実り多き勉強会となりました。



(相良かおる)

◆ ◆ 惜 別 ◆ ◆

書記 矢田和子会員 (77) (2019年11月2日逝去)

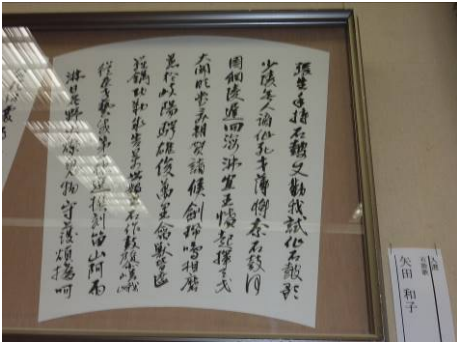


書記として活躍され、「創立70周年記念誌」発行の際、その才能を遺憾なく発揮されました。会員拡大にも尽力され、福岡支部に多大な貢献をされました。

優れた書家であり、俳人としても、2018年には句集「和草」で福岡市文学賞を受賞されました。2019年の九州俳句大会で優秀賞に選ばれた句を読みますと、ひとしお寂しさが募ります。

「来年も 生きるつもりの 種を蒔く」
心より矢田さんのご冥福をお祈りいたします。

(青沼 美撫子)



矢田和子会員の書



在りし日の矢田和子会員

(一社) 大学女性協会 (JAUW : Japanese Association of University Women)

1946年に創設され、1954年に国際大学女性連盟 (IFUW : 1919年創立) に加盟。

2012年に一般社団法人となり、IFUWと協働しながら女性の地位向上を目指す、公益活動を行う非政府組織 (NGO : Non-Government Organization) です。奨学金事業、女性リーダーの育成、国内外の諸問題に対する唱道活動など多様な事業を展開しています。

Web ページ : <http://www.jauw.org/>

会費

- 入会金 1,000 円 (正会員のみ)
- 年会費 正会員 7,000 円 (IFUW 年会費を含む)
- 賛助会員 6,000 円



福岡支部は、1947年に設立され、支部会費は2,000円です。

国際大学女性連盟 (IFUW : International Federation of University Women)

世界 61 カ国の大学卒業女性による 国際非営利、非政府団体です。

なお、2015年4月より GWI (Graduate Women International) に名称変更しました。

本部はジュネーブにおかれ、3年ごとに加盟国各国回り持ちで総会が開かれます。

以下の目的を達成するために、各国でさまざまな状況に応じて活発な活動を展開しています。また、国連諸機関に代表チームを派遣し、世界の重要な問題に対して直接発言をしています。

目的

1. 女性の生涯にわたる教育を推進する
2. 国際協力、友情、平和と人権を推進する
3. 女性の地位の向上を擁護し、支持する
4. 公的および私的な生活でのリーダーシップと意思決定において、女性がその知識と技術を活用することを奨励する

